



# 肺がんCT検診認定機構メールマガジン

第19号

2016年3月号

## 目次

免疫チェックポイント阻害薬をCT検診への追い風に .....	1
関連会議のご案内 .....	2
編集後記 .....	3

## 免疫チェックポイント阻害薬をCT検診への追い風に

(公財)東京都予防医学協会

金子昌弘

各地から桜の便りも聞かれますが皆様方の方ではいかがでしょうか。

さて、皆様ご承知のことと存じますが、免疫チェックポイント阻害薬という全く新しい観点からの抗がん剤が開発されました。その中でも「ニボルマブ」という薬剤が非小細胞肺がんにも効果があることがわかり、保険での適応が認められるようになりました。今まで有効な抗がん剤が無かった扁平上皮癌にも効果があるとのことで、大変に期待が持たれていますが、実は大変に大きな問題があります。

医学界新聞の3月7日号に「コストを語らずにきた代償」「絶望」的状况を迎え、われわれはどう振る舞うべきか、というタイトルで日本赤十字社医療センターの國頭英夫先生へのインタビュー記事が出ております。それによると1回の治療に130万円ほどかかり、2週毎に投与しなくてはいけないので、年間で一人3500万円近くかかるそうです。新たに罹患する肺がん患者さんの数は年間10万人ほどですから、その半分ほどがこの治療の適応となると、それだけで1兆7500億円になります。高額医療の適応になりますから患者さん本人の負担は所得によりますが、最高でも年200万円ですみますので、残りはすべて公的な負担になり、このままでは早晩国の財政は破産してしまうことは目に見えているとのことです。

このような状況の打破にはCT検診の普及が不可欠であろうという指摘が、放医研の飯沼先生からありました。一般に自覚症状で発見される肺がんの7～8割は進行がんで、X線による検診でも発見肺がんの半数以上をI期にすることが目標になっている状況です。一方CT検診では先日行われた日本CT検診学会の調査では7割以上がI期で発見されています。仮に50歳以上の国

民が全員CT検診を定期的に受診していれば、進行がんで発見される例は激減するでしょう。

もちろんCT検診はX線での検診に比べて費用も掛かりますし、CT装置の台数や読影医の数の問題から検査できる数にも限界があります。どのくらいの数を行うことができるのか、またどのくらい行えば、年間1兆円のクスリ代を少しでも減らすことができるかどうか試算を行い、各自自治体や企業へのCT検診導入への手がかりにしていくことが必要と思います。

國頭先生の問題提起を踏まえて私見を述べさせていただきました。参考にしていただけると幸いです。またご批判や追加などありましたら是非ご投稿ください。お待ちしております。

---

## 関連会議のご案内

---

### 第56回日本呼吸器学会学術講演会

日時 2016年4月8日(金)～10日(日)  
場所 国立京都国際会館  
会長 橋本 修(日本大学)  
ホームページ <http://www.jrs.or.jp/jrs56/>

### 第72回日本放射線技術学会総会学術大会

日時 2016年4月14日(木)～17日(日)  
会場 パシフィコ横浜  
会長 小倉 明夫(群馬県立県民健康科学大学)  
ホームページ <http://www.jsrt.or.jp/gmeeting/soukai72/>

### 第75回日本医学放射線学会総会

日時 2016年4月14日(木)～17日(日)  
場所 パシフィコ横浜  
会長 玉木 長良(北海道大学)  
ホームページ <http://jrs2016.gakkai.me/>

### 第33回日本呼吸器外科学会総会

日時 2016年5月12日(木)～13日(金)  
会場 国立京都国際会館  
会長 伊達 洋至(京都大学)  
ホームページ <http://www.congre.co.jp/jacs33/>

### 日本CT検診学会夏期セミナー 2016

日時 2016年7月23日(土)  
会場 浜離宮朝日ホール(小ホール)  
代表世話人 中川 徹(株式会社日立製作所日立健康管理センタ)  
ホームページ <http://www.jscts.org>

## 編集後記

前号でお知らせしましたように、本年1月から事務局が株式会社クバプロに代わりました。早速2月3日にはCT検診関連の事業が目白押しで2月12日、13日には本機構の母体である日本CT検診学会学術集会が行われ、2月27日、28日には認定技師のための定期講習会並びに認定試験、および更新講習会が行われ、3月13日には認定医師更新講習会 兼 認定医師新規認定講習会がそれぞれ盛会のうちに無事に行われました。

3月21日にはNPO法人肺がんCT検診認定機構の総会も滞りなく行うことができ、定款も変更し、正式に機構の本部および事務局がクバプロの方に移動しました。昨年6月以降事務局機能の低下で皆様がたには多大なご迷惑やご心配をおかけしておりましたが、今後は円滑な運営が行われますのでご安心ください。

(文責：金子昌弘)

---

## 肺がんCT検診認定機構メールマガジン

### 第19号

2016年3月25日発行

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F  
株式会社クバプロ内「NPO法人肺がんCT検診認定機構事務局」

編集責任者 金子昌弘

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：ct-nintei@kuba.jp

WEBSITE：http://www.ct-kensin-nintei.jp/

---